

「科学雑誌で学ぶ日本語Ⅱ」作文練習 13

木下大輔

2022年05月18日

1 第一問

「一方、近年のさまざまな研究によって、古生物者たちが考えるティラノサウルス像はさまがわりしつつあるという。」という文がありました。「…動詞 + つつある…」を含む文を作りなさい。

2 第二問

「では、生まれたばかりのティラノサウルスについてはどんあことがわかっているのだろうか。」という文がありました。「…ばかり…」を含む文を作りなさい。

3 第三問

「あまりの小ささから、当初はティラノサウルス類の化石だとは考えられていなかったが、研究の結果、いずれもティラノサウルス類に共通する特徴をそなえていることがわかり、孵化前の個体だと考えられた。」という文がありました。「…いずれも…」を含む文を作りなさい。

4 第四問

「恐竜の研究といえば、かつては化石を丹念に調べるしかなかった。」という文がありました。「…しかない」を含む文を作りなさい。

5 第五問

「1993年に映画『ジュラシック・パーク』が公開されて、多くの若者が恐竜研究を志すようになりました。」という文がありました。「…ようになる」を含む文を作りなさい。

6 第六問

「今なお、みつからないティラノサウルス類もいるはずで、この分類群の全容解明までは至っていないが、着実にティラノサウルス類についての理解が進んでいることは間違いないだろう。」という文がありました。「…はず…」を含む文を作りなさい。

7 第七問

「ただし、ディロングは体長が1.6メートルと小さかったことから、羽毛があるのは小型の種だけで、ティラノサウルスのような大型の種にも羽毛があるとまではこの段階では考えられていなかった。」という文がありました。「…だけ…」を含む文を作りなさい。

8 第八問

「ティラノサウルスに比べると小さいとはいえ、決して小型とはいえないユティラヌス・フアリに羽毛があったことで、ティラノサウルスが羽毛におおわれていても不思議はないと考えられるようになったのだ。」という文がありました。「…決して…ない」を含む文を作りなさい。